庭木に利用する樹種の特徴と管理
～ イチイ ～

日本樹木医会富山県支部
樹木医　**西 村 正 史**

富山市山間部の民家の庭に植栽されているイチイの小枝に枯れが目立ち、木全体が枯れるのではないかと心配され、枯れた小枝を2019年５月16日に（公財）花と緑の銀行に持ち込まれました。持ち込まれた枯れた小枝を調べるとともに、６月14日に現地でイチイの状況を目視等により調査しました。

今回はその結果をお知らせします。

１　持ち込まれた枯れた小枝が枯れた原因

枯れた小枝（写真１の左）には薄い緑色の部分が残っている針葉がわずかにありましたが、大半の針葉は枯れており、触ると針葉がパラパラと落ちました。枯れた小枝には小さな丸いものが多数ありました（写真１の左）。針葉を含め枯れた小枝には病害と思われる病状はありませんでした。

イチイは雌と雄が別々の木です。12月を過ぎるとイチイの花芽は大きくなり、雌の木の花芽は先が尖ってまばらに付き、雄の花芽は球状で密に付くという特徴があります。持ち込まれた枯れた小枝には球状のものが多数あったので（写真１の左）雄の木でした。2019年５月22日に富山県中央植物園の雄のイチイの小枝を調べたところ、2018年の枝と2019年の枝があり、前者の枝には球状の雄花が着いていました（写真１の右）。したがって、持ち込まれた枯れた小枝は2018年の12月には生存していましたが、翌年の１月から３月の間に枯れたのではないかと推測されました。最も可能性のある小枝の枯れの原因は、積雪によって小枝が損傷を受けて衰退し枯死に至ったものではないかと推測されました。

現地調査からイチイの樹冠には枯れた小枝がありましたが、目立つほどの量ではなく、木全体が枯れることはないと判断されました。

なお、聞き取り調査からかなり以前に雪害で幹が折れ、現在のような状態になったとのことでした（写真２の左）。そのためか、雪害対策と思われる鉄骨の支柱が設置されていました。

２　現在のイチイの状況

現在の状況を把握するため、2023年７月10日に４年後のイチイの状況を見てきました（写真２の右）。葉量は多くなっており、樹勢は良好な状態でした。

３　維持管理

イチイは、成長が遅いものの、耐寒性が強く、寒地でもよく成育し、病虫害の発生もまれで、庭木として適しています。2019年の冬に発生した雪害によると推測された小枝の枯れは、４年後のイチイの観察からも樹勢に影響しないことが再確認されました。

この民家には、樹幹上部が枯れた状態のもう１本のイチイがありました。これもかなり以前に発生した雪害による幹折れであると推測されました。このような地域では、積雪による幹折れが心配されます。ある程度大きくなると剪定を行って樹高や葉量を調整し、一定のサイズに維持することが必要ではないかと思います。

なお、庭木としては赤い実を着ける雌の木をおすすめします。しかし、この赤い実の果肉以外は有毒ですので、気をつけてください。

写真１　左：持ち込まれたイチイの枯れた小枝。丸いものは雄花。
右：富山県中央植物園内で調査したイチイの枝。Aは2019年の枝、Bは2018年の枝。

写真２　富山市八尾の民家のイチイ（樹齢は推定300年）。左の写真は2019年6月14日に、右の写真は2023年7月10日に、それぞれ撮影。左の写真の中央上の部位（赤丸）はスギの先端。右の写真には無いが、伐採されたものと思われる。